

# 「れんら君」シリーズ新展開 N K E 夏の暑さ 冬の乾燥 介護施設向け 見守り提案



林 智広リーダー



岡 友也氏

モノづくり現場を支援する様々な機器の設計・製造・販売を行うNKE（社長＝中村道一氏、本社・京都市伏見区羽束師菱川町366-1）は、IoT（モノのインターネット）を既存設備に後付けできる簡易情報連絡端末「れんら君」シリーズの中で、環境測定タイプの「WBGTrれんら君」を介護施設や工場、オフィス向けの環境管理の見守り用途で提案して

いる。「WBGTrれんら君」は温度センサーから暑さ指数（WBGTr）を計算し、熱中症警戒レベルを4段階でモニター画面に表示するもの。警戒レベルを超えた場合、警報ブザーや通知メールを発報することが可能。気温が上がりやすい夏場では熱中症対策に活用でき、乾燥しやすい冬場は湿度センサーから実効湿度や絶対湿度を計測し、火災や



WBGTrれんら君

侵入検知といった簡易セキュリティとしても活用できる。「れんら君」シリーズは接点出力が可能な機器、または各種センサーと接続することで、ビル・工場内の設備稼働状況や環境変化をモニター画面にグラフ表示させる機能や、あらかじめ設定した上限・下限値を超えた時に自動で通知メールを発報する機能を有している。設定はパソコンと「れんら君」を同じネットワークに接続するだけ。インターネット接続は有線LANと無線LANに対応し、「WiFi」の環境が整っていれば、スマートフォンやタブレット端末でも設定が可能。国内がコロナ禍による健康不安に陥った2020年以降、同社では飲食店の空気環境を可視化する用途で室内のCO<sub>2</sub>濃度や湿度の状況をモニター画面に表示する「CO<sub>2</sub>れんら君」の採用実績が増大した。WBGTrれんら君は「CO<sub>2</sub>れんら君」のDNAを引き継いだもの。今年8月の発売以降、製造現場を中心に複数の実績があるという。営業部営業支援グループの林智広リーダーは「換気ニーズに関連したCO<sub>2</sub>濃度測定用途での需要は縮小傾向だが、本製品は職場環境での熱中症やインフルエンザの発症リスクを予防するための需要が見込まれる。室内環境の安全・安心を担保する見守り用途として提案を継続している」

インフルエンザになりやすい環境の危険度も知らせてくれる。また人感センサーと音センサーを搭載しているため、夜間の人の動きや物音の反応も記録。倉庫に設置して湿度記録と同時に不審者の

報する機能を有している。設定はパソコンと「れんら君」を同じネットワークに接続するだけ。インターネット接続は有線LANと無線LANに対応し、「WiFi」の環境が整っていれば、スマートフォンやタブレット端末でも設定が可能。国内がコロナ禍による健康不安に陥った2020年以降、同社では飲食店の空気環境を可視化する用途で室内のCO<sub>2</sub>濃度や湿度の状況をモニター画面に表示する「CO<sub>2</sub>れんら君」の採用実績が増大した。WBGTrれんら君は「CO<sub>2</sub>れんら君」のDNAを引き継いだもの。今年8月の発売以降、製造現場を中心に複数の実績があるという。営業部営業支援グループの林智広リーダーは「換気ニーズに関連したCO<sub>2</sub>濃度測定用途での需要は縮小傾向だが、本製品は職場環境での熱中症やインフルエンザの発症リスクを予防するための需要が見込まれる。室内環境の安全・安心を担保する見守り用途として提案を継続している」

と話す。また同グループの岡友也氏は「介護施設ですと冬の高齢者の体には様々な影響を及ぼす可能性がある」と聞いた。中でも湿度が低い環境になると乾燥しやすくなり、肌のかゆみやひび割れなどを引き起こすとのこと。また感染症の危険性も高まる。インフルエンザ発症リスク低減はもちろん健康に関する生活の質向上を図れる点を訴求していきたい」と述べた。